

講演Ⅱ「演劇博物館デジタル・アーカイブの現状と課題」

Lecture II “Current situation and challenges of the digital archive of the Waseda University Theatre Museum”

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長・早稲田大学文学学術院教授 岡 室 美奈子
Director of Waseda University Tsubouchi Memorial Theatre Museum OKAMURO, Minako

本日は、まず演劇博物館についてご紹介し、デジタル・アーカイブの現状とデモ、デジタル・アーカイブの課題、ヴァーチャル・ミュージアムの未来という段取りで考えていますが、課題や未来の話は後のディスカッションの方でお話していただけるかと思っておりますので、現状の話を中心にさせていただきます。

演劇博物館の概要

まず、坪内博士記念演劇博物館（通称エンパク）のご紹介をさせていただきます。創立が1928年（昭和3年）ですので、今年で87年目となります。独特な外観の建物ですが、当初からこの建物です。これは坪内逍遙が70歳の古希を迎えたことと、その半生を傾注した「シェークスピア全集」全40巻の完成をお祝いして建てられました。シェークスピアということで、エリザベス朝時代のロンドンにありましたフォーチュン座という劇場を模しており、正面には「この世は全て舞台」という言葉がラテン語で記されています。舞台は現役で稼働しており、ときどき学生がパフォーマンスをしたり、プロの方をお招きしてパフォーマンスをしていただいたりしています。

演劇博物館はアジアで唯一の演劇・映像専門博物館です。100万点に及ぶ多種多様な収蔵品があり、全国の博物館の中でもかなり多い方ではないかと思えます。錦絵（浮世絵）が約4万6800枚、舞台写真が40万枚、演劇、映像関係の図書が25万5000冊、チラシ・プログラムなどの演劇上演資料が約8万点、衣装・人形・書簡・原稿などの博物資料が15万9000点、その他貴重書・視聴覚資料などがあります。小さな博物館なのですが、この中に古今東西の演劇の歴史がぎゅっと凝縮されているといえます。1987年にはこの建物が新宿区の有形文化財に指定されています。（スライド1）



スライド1 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

早稲田大学坪内博士記念 演劇博物館の概要

創立1928年(昭和3年) 坪内逍遙

アジアで唯一の演劇映像専門博物館

百万点におよぶ多種多様な收藏品

新宿区有形文化財(1987年指定)

さらに詳しく申し上げますと、演劇、映像資料というのは本当に多種多様です。紙媒体では、歌舞伎台帳、浄瑠璃本、古書、図書、雑誌、台本、脚本、自筆原稿、草稿、チラシ、ポスター、写真、書簡、日記、電報、広報誌、切り抜き、メモなど。上演関係では、衣装、靴、装身具、小道具、仮面、模型、設計図など。映像・音源は、SP・LPレコード、カセットテープ、VHS、8mm、CDなどなどです。逍遙が自分で訳した「ハムレット」や「ベニスの商人」の全部の登場人物一人で演じているような音源もあり、名調子でびっくりします。その他として、人形、鏡台、トロフィー、有名な女優さんの手縫いの防空頭巾もあります。役者さんが実際に使っていた鏡台がずらっと並んでいるような収蔵庫もあります。(スライド2)

演劇・映像資料とは？

- 演劇資料は多種多様。
- **紙媒体**：歌舞伎台帳、浄瑠璃本、古書、図書、雑誌、台本、脚本、自筆原稿、草稿、チラシ、ポスター、写真、書簡、日記、電報、広報誌、切り抜き、メモ、etc.
- **上演関係**：衣装、靴、装身具、小道具、仮面、模型、設計図、etc.
- **映像・音源**：SP・LPレコード、カセットテープ、VHS、8mm、CD、etc.
- **その他**：人形、鏡台、トロフィー、防空頭巾、大入り袋、骨壺、etc.



スライド2

演劇情報総合データベース設立の経緯

私は2013年4月から館長になり、最初にしたのがホームページのリニューアルです。現在は、建物の構図を生かしたようなホームページになっています。「オンライン・ミュージアム」「データベース」とありまして、ここからデジタル・アーカイブの方に入っていただくことになります。真ん中に「エンパクへようこそ！CLICK!」とあり、クリックしていただくと次の画面に移ります。踊っている人、能を舞っている人、映画を撮っている人などがいて、そこをクリックすると、その関連のところへ飛ぶようになっています。(スライド3・4)

今日のお話の中心になるのが、演劇博物館演劇情報総合データベース「デジタル・アーカイブ・コレクション」です。先ほど、経緯などのいろいろな事情でさまざまな呼び方があるというお話もありましたが、演劇博物館はデータベース構築への着手が非常に早く、デジタル・アーカイブやヴァーチャル・ミュージアムといった言葉が全くなかった時代からデータベース構築をやっており、その当時から演劇情報総合データベースと呼んでいます。最近では、それをデジタル・アーカイブと呼び換えていて、入り口のページもリニューアルしたいと考えています。



スライド3




スライド4

演劇情報総合データベース構築の経緯について少しご説明しておきます。1989年、収蔵品管理データベースの構築に着手しました。光ディスク電子画像ファイリングシステムという名称が時代を感じさせたりもしますが、それが飛躍的に変化したのが2000年代で、2001年が演劇博物館のデジタル・アーカイブ元年になります。2000年代になり、科学研究費研究成果公開促進費（データベース科研）を頂くようになり、ここから公開に踏み切っていきます。特に2010年度から5年間、このデータベース科研の重点データベースとして採択され、このあたりから飛躍的にデータの量も増え、今は総計52万件に及ぶデータを公開しています。(スライド5・6)


演劇博物館 演劇情報総合 データベース

デジタル・アーカイブ コレクション



The screenshot shows the '演劇博物館 デジタル・アーカイブ・コレクション' website. It features a search bar, a list of categories like '演劇情報総合データベース', '演劇上演記録', and '演劇写真・映像', and a detailed '検索方法' (Search Method) section explaining how to use the database. There is also an 'お知らせ' (Notice) section with recent updates.

スライド5



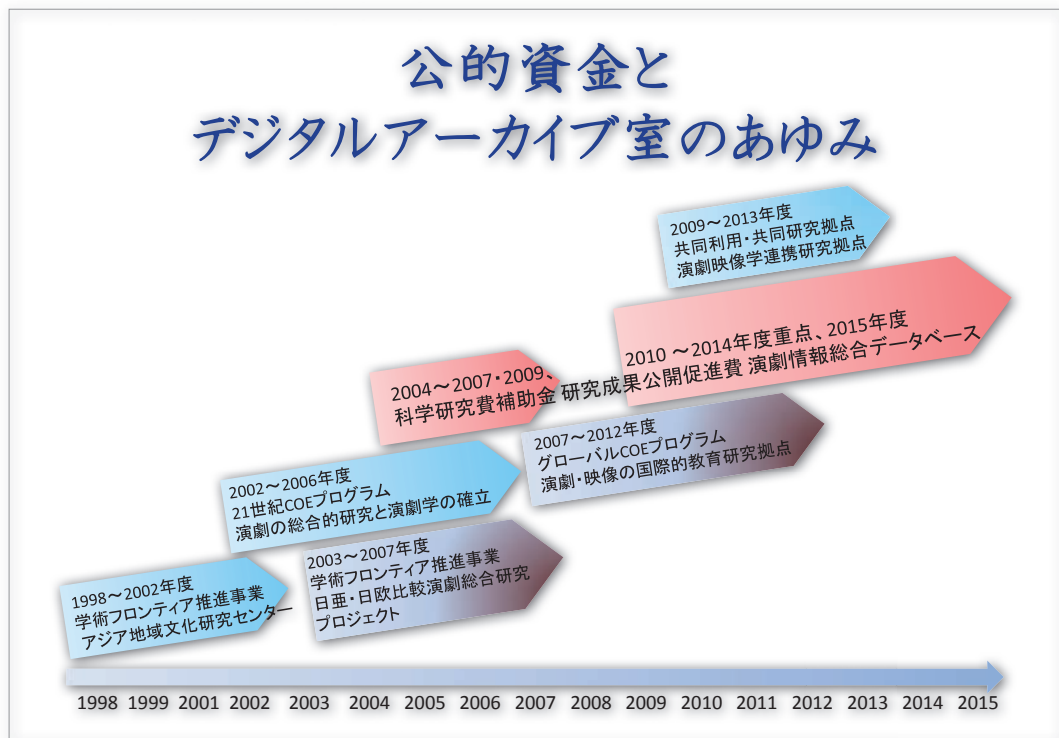
「演劇情報総合データベース」 構築の経緯

- ・1989年收藏品管理データベース構築着手
光ディスク電子画像ファインディングシステム導入により、複製画像と組み合わせた資料の共有化を目指した。
- ・2000年代 科学研究費研究成果公開促進費(データベース科研)等により公開

2010年度から5年間「重点データベース」として助成を受け、総計52万件に及ぶデータを公開

スライド6

ただ、いくら演劇博物館が頑張ってデジタル・アーカイブを展開していても、大学がそれに対して予算をつけてくれるわけではありませんので、公的資金をせせと取ってこなければいけないというのが現状です。私の前の館長は、公的資金を取ってくることに非常に長けていました。特に、2002年度から2006年度まで21世紀COEプログラム、2007年度から2012年度までグローバルCOEプログラムという二つのCOEに演劇博物館が採択され、ここで国際的な教育研究拠点として飛躍的に発展しました。デジタル・アーカイブで申しますと、やはり先ほど申し上げた科学研究費補助金研究成果公開促進費、特に2010年度から2014年度までの重点データベースのおかげです。今年度も採択はされているのですが、残念ながら重点ではないので単年度で毎年申請しなければならず、毎年どきどきしながら結果を待つような状態になっています。(スライド7)



スライド7

デジタル・アーカイブの実績

2014年度のアクセス数が2756万8643件、前年比17%増となっています。特に当館の目玉である浮世絵のデータベースには1547万5800件もアクセスがあり、これは24%増となっています。当館の浮世絵データベースは、登録データ数が4万7571件と世界有数のコレクションとなっており、海外からのアクセスも非常に多いものです。しかし、インターフェースが研究者向けに作られたものになっており、あまり使い勝手が良いとは言えませんでした。そこでデジタル・アーキビストと相談し、昨年度、インターフェースの改善をしました。かなり使い易くなったおかげで、アクセス数24%増につながりました。(スライド8・9)

<p>デジタル・アーカイブの実績</p> <p>2014年度アクセス数</p> <p>全体: 27,568,643件 (前年度比+4,093,237)約17%増加</p> <p>浮世絵: 15,475,800件 (前年度比+2,992,450)約24%増加</p>		<p>浮世絵データベース</p> <ul style="list-style-type: none">・登録データ数: 47,571件 世界有数のコレクション・アクセス数の増加: インターフェースの改善・役者絵と番付を見比べる研究者が多い
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

スライド8

スライド9

研究者の間では以前から非常に活用していただいております。例えば番付のデータベースと役者絵を比べるといったことでご利用いただいております。例えば、豊国の初代三代のコレクションなどは量的に充実しており、人気が高いです。(スライド10・11)

三代 歌川豊国

	
------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

スライド10


歌川国芳 3枚組



スライド11

長らく浮世絵データベースが当館の目玉だったのですが、昨年、別の展開をしたいということで、アーキビストの提案で3Dデータベースに着手しました。データ公開数は109件ですから、浮世絵などと比べると全く桁が違って少ないように見えるのですが、うちのアーキビストが言うにはネット上で公開されている3Dデータ数としては国内最大、世界でも有数で、現時点ではスミソニアン博物館よりも公開数は多いのだそうです。もし「うちをもっとたくさん公開している」というところがあれば教えていただければと思います。後で実際にお見せしますが、演劇博物館の3Dデータベースは、今のところ仮面類のみなのですが、光源の位置や背景の色や明暗を自分で考えられるところが大きな特徴です。

3Dデータベースの可能性としては、3Dプリンターによる復元ができるということがあります。もちろん、復元に関しては著作権などいろいろな問題がありますので、あまり簡単にはできませんが、レプリカの作成や教育的利用、特に災害で資料がなくなったり壊れてしまったときに、3Dデータがあればある程度復元できるといった利点があります。(スライド12・13)




3Dデータベース

- ・web上でのデータ公開数:109件
- ・国内最多数。

世界最大The California Academy of Sciences
- スミソニアン博物館27件。
- 大英博物館20件。

★光源の位置、色、背景の明暗
などの変更によるシミュレーション

スライド12



3Dデータベースの可能性

- ・3Dプリンタによる復元
- レプリカの作成
- 教育的利用
- 災害等によるオリジナルの欠損など

スライド13

実際に使ってみる前に、少し他の資料のことを申し上げておきます。演劇博物館では2015年度春季企画展として「幻燈展——プロジェクション・メディアの考古学」を開催しましたが、幻燈スライドを数千点所蔵しています。(スライド14)

幻燈スライド



41501-631

8

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館所蔵
Copyright © The Takemitsu Memorial Theatre Museum,
Waseda University. All Rights Reserved.

41501-183

L75 13 / 4

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館所蔵
Copyright © The Takemitsu Memorial Theatre Museum,
Waseda University. All Rights Reserved.

6740-1-54

スライド14

それから、たとえば杉村春子さんの台本データベースもあり、これは全てデジタル化していますが、著作権の関係で館内閲覧のみとなっています。杉村春子さんの台本の特徴は、書き込みが非常

に多いのです。また、さまざまなものが挟まっており、挟まっているものも一緒にデジタル化しています。この書き込みを見ることで、杉村春子さんが劇作家の言葉にどう反応したかという息遣いのようなものが私たちに伝わってくる、そういう意味で書き込み台本は非常に重要だと考えています。(スライド15・16) そのほかにも、浄瑠璃本や歌舞伎の番付など、さまざまな資料がデジタル化されていますので、ぜひエンパクHPのデジタル・アーカイブを覗いてみてください。

杉村春子台本データベース

- ・すべてデジタル化。
- ・図書資料として「館内閲覧」可能。
- ・博物資料的な価値。
自装。書き込み。挟み込み。

スライド15

杉村春子台本データベース

- ・著作権は誰に？
『女の一生』(書き入れ台本)を例に考える。
 - ・作者 森本薫 1946年没
 - ・演出 戌井市郎 2010年没
 - ・上演主体の文学座は？
 - ・書き込みはプライバシーか？著作権は？
(台詞が追加されている場合は？)
- ・「配席」の場合、いつまで公開不可能なのか？
⇒一定のルール作りの必要性

スライド16

デモンストレーション

ここで、実際にデジタル・アーカイブを見ていただきます。浮世絵データベースの入り口から入っていただきますと、さまざまなサーチをしていただくことができます。例えば作者の名前で選ぶこともできますし、俳優の名前で選ぶこともできます。例えば「おかる」と入れると、「おかる」を描いた役者絵が作者にかかわらず出てきます。「豊国」で検索すると、サムネイルがたくさん出てきます。一つ選ぶと、メタデータが出てきて、さらに画像をクリックすると高画質なものが出てきます。

次に、3Dデータベースをご紹介します。例えば能面です。皆さまご存じのように、能面は見る角度によって表情が変わるといことがあり、そういうものは実際に能を見に行かないと分からないものですが、3Dデータベースでは、マウスでドラッグして角度を変えることができます。ちょっと微笑んでいるように見える角度もあれば、上の方を向かせると物寂しげな表情になったりします。さらにぐるっと回すと裏面が見えます。この画面では三つの光源を自分で移動させることによって、見たいところを明るくすることが可能です。これによって、実際に展示室で見るときのさまざまな明るさや光源の位置をある程度再現しつつ見ることが出来ます。また、背景の色調を変えることも可能です。

次は皆さまよくご存じの般若面ですが、これらの3Dデータは皆さまのご自宅で、PDFファイルでダウンロードすることができます。さすがにPDFファイルには光源は付いてきませんが、裏返したりすることはできます。木目なども再現されており、かなり再現性は高いです。

今日、ここに仮面をお持ちしました。これが元の仮面で、それを3Dでデータ化したと思われるかもしれませんが、実はこれは3Dデータを基に3Dプリンターで再現したものです。かなり精巧です。日本に2台ほどしかないプリンターで再現したそうで、これは石膏でできているのですが、木目の感じがよく出ています。再現に関しては慎重にならざるを得ないところはもちろんあります

が、データで持っていることで、こういった資料の共有、災害時の対応、あるいは教育目的の利用など、さまざまに博物資料の利用範囲が広がることは確かだろうと思います。

こういったものをこれからどう使っていくかというお話もしたかったのですが、時間になりましたので、大変駆け足になりましたが、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。